

長野県伊那市「市内製造業の課題解決を通じた市内経済の活性化」

- 伊那市は長野県の南部に位置し、南アルプスと中央アルプスに抱かれ、市の中央部を天竜川と三峰川が流れる自然共生都市である。市内を南北に走る中央自動車道や国道153号などの幹線道路が整備され、東京・名古屋のほぼ中間に位置していることから、商工業にとって優良な立地条件となっている。
- 伊那市では電気、精密など高度な加工技術産業や食品などの健康長寿関連産業が発展し、ものづくりの拠点として多くの工業団地が形成されている。
- 近年は回復の兆しがあるものの、2008年以降、製造品出荷額等は低い水準のままととなっている。そこでRESASや他の統計データを活用した分析によって幅広い製造業の課題を認識し、「伊那市経済の活性化」に向けた産業政策のあり方についてワークショップを実施した。

実施概要

- ・日 時：平成31年2月19日（火）
- ・会 場：伊那市役所 5階 501・502会議室
- ・テーマ：「市内製造業の課題解決を通じた
市内経済の活性化」
- ・参加者：20名
(伊那市長、伊那市職員、商工会議所、商工会、アルプス中央信用金庫、長野県南信工科短期大学校、上伊那産業振興会、ニューフロンティアin伊那 等)
- ・有識者：
東京大学大学院 総合文化研究科 松原 宏 氏
- ・使用したRESASのデータ：
人口構成/人口の社会増減/全産業の構造/製造業の構造/付加価値額/労働生産性/黒字赤字企業比率/生産分析 等
- ・その他の利用データ：
伊那市工業技術ガイド/経済センサス活動調査/伊那市独自調査

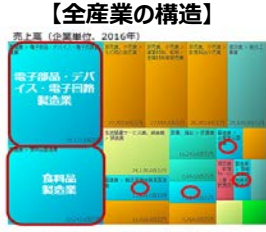
代表的な分析手法

- ・産業構造マップの全産業（全産業の構造）により、産業構造を大分類及び中分類で把握。
- ・地域経済循環マップの生産分析により、生産額と移輸出入収支額を把握。
- ・企業活動マップの企業情報および伊那市の独自調査により、業績や市内企業の取引割合を把握。

分析結果

- 製造業は事業所を含めると多種多様な産業が集積し、本社単位では電子部品・デバイス・電子回路製造業や食料品製造業が強みである。
- 近年は回復の兆しがあるものの、製造業全体では2008年以降、製造品出荷額等の低水準が継続している。また、資金循環を見ると電気機械や食料品は市外からのお金を稼げていない。
- 市内企業の黒字企業比率は、長野県や他市と比較すると低く、市の独自調査では多くの企業が売上関連や人材面での課題を抱えている。更に、伊那市内の企業間取引が弱い構造となっている。

【全産業の構造】



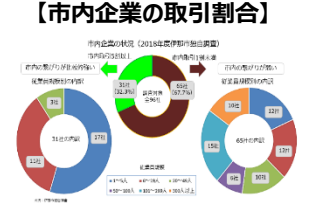
西上篇（企業単位、2016年）

【生産額と移輸出入収支額】



2013年 製造業 生産額上位と移輸出入収支額

【市内企業の取引割合】



市内企業の取引（2013年度県内取引割合）

施策提案：企業間ネットワークの強化を通じた製造業の活性化

- ◆ 企業間連携を促進するための支援者プラットフォームの構築

企業の抱える課題解決のため、市内企業の中小企業等を伴走支援する「企業間連携促進支援者プラットフォーム（仮称）」を設立。

⇒各組織の持つ強みを集めた一体支援を行い、中小製造業の課題解決を通じた市内経済の活性化を目指す。



伊那市内の多様な組織・人を結ぶ
企業間連携促進支援者プラットフォーム（仮称）
2017年度10月20日（水）に開催されたワークショップで決定

